

「AMG協議会ニュースは、AMG協議会各部署からAMG全職員への情報発信を目的としています」

2026  
No.079  
1月号

January

上尾中央医科グループ  
AGEO MEDICAL GROUP編集・発行人 AMG協議会総務部 広報室 <https://www.amg.or.jp>  
〒362-0075 埼玉県上尾市柏座1-10-3-58 TEL:048-773-1113 FAX:048-773-7116  
監修／(株)寿エンタープライズ 制作／(株)博愛社

## 2025年度 臨床工学部 新入職員リフレッシュ研修会

臨床工学部

9月25日に、サンアメニティ北本キャンプフィールドにて、新入職員リフレッシュ研修会を開催しました。キャンプ場という開放的な空間での開催は、新鮮味があり良い気分転換になったのではないのでしょうか。課題やカレー作りなどの共同作業を通じて同期との親交を深める良い機会となり、少しでも今後の業務の励みになっていただけたら幸いです。

上尾中央腎クリニック 今井 雅彦

## 研修目的

他施設の同期メンバーとの交流、仕事に関する不安や悩みを共有し、心身のリフレッシュを図る。

## プログラム

- ① 開会式
- ② 自己紹介
- ③ アイスブレイク(ミニゲーム)
- ④ 火起こし体験
- ⑤ クイズ課題
- ⑥ カレー作り 昼食
- ⑦ 閉会式

## 火起こしとクイズ課題

非日常と達成感を味わっていただくために、普段余り触れる機会のない火起こしを体験していただきました。またクイズでは、社会人として幅広く多くの事に興味を持って欲しいという思いから、様々なジャンルの問題を用意し、個人の得意を活かせるような内容としました。





## 次世代リーダー研修実施報告

臨床工学部

昨年度に引き続き主任職前の部員を対象に「次世代リーダー研修」を実施しました。

研修内容は「他施設の業務内容、物事の方法を知り、自身の仕事に対する考え方や姿勢を再確認すること」を目的とし2つの課題で構成しました。

1つ目の課題は「現在自分が任されている仕事」「今後取り組んでいきたいこと」をテーマにパワーポイントにまとめ発表してもらいました。

参加者からは「他施設の業務内容を知る事が出来とても刺激になった」「業務の取り組みの違いを知り、参考にしたい取り入れたいと感じる点が多くあった」等の声が聞かれました。

普段、他施設の状況を詳しく聞ける機会も少ない為、貴重な時間になったように感じました。

2つ目の課題ではディベートを実施しました。ディベートは2回行い、1回目は「朝ごはんはパン派? ご飯派?」、2回目は「部下には自由に任せるべきか、細かく指導するべきか、自律尊重派VS指導管理派」をテーマとしました。ディベートの経験値を考慮し、1回目で慣れてもらい2回目を本題としました。結果「次世代リーダーとしての意識付けができた。論理的に話す事は難しいが説得力があるので鍛えたい」「相手の意見を尊重しつつ自分の考えを述べることは良い経験となった。普段は感情的になってしまう事もあるが、落ち着いて意見交換することの大切さを感じた」との意見をもらいました。

参加者は多方面と話し合う機会も増えてくる立場の為、ディベートから話し合う機会の大切さ、円滑に話をするスキルの重要性を学べたように感じました。

今回は課題の前にアイスブレイクを実施したことで部員同士の交流の場も得られ、より有意義な研修に出来たと考えます。

エイトナインクリニック 室橋 暁



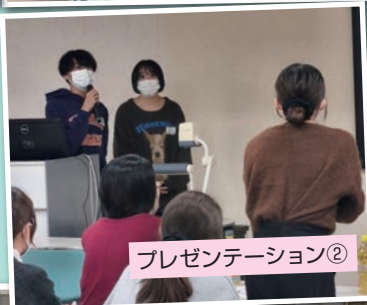
ディベート③



ディベート②



開会の挨拶



プレゼンテーション②



プレゼンテーション①



会場



ディベート①



# 関東甲信越臨床工学会 学会運営・参加報告

臨床工学部

2025年10月5・6日に開催された第5回関東甲信越臨床工学会に参加しました。今年は埼玉県主催ということもあり、臨床工学部からも3名運営にも携わりました。テーマは「千紫万紅～誰もが輝ける未来へ～」で、色とりどりの花が咲き乱れる様子を臨床工学技士に重ね、誰もが輝ける職場や家庭環境をつくりたいという思いが込められています。テーマはメンバーで案を出し投票で決定したもので、実は私が考えた案が採用されました。

運営では、どのようにすれば集客につながるか、企画内容や広報方法をメンバーと試行錯誤しながら準備を進めました。当日も会場の司会進行や時間管理、シープリンになって学会を盛り上げるなど、大忙しでした。その結果、過去最高となる演題登録数・参加者数を記録し、盛会のうちに終了しました。

また、「千紫万紅～今求められるCE教育とは～」では座長を務め、関東甲信越各都県と協力して企画段階から携わりました。CE教育に関するアンケートを各都県に展開し、集まった526件の回答をもとにパネルディスカッションを実施。他県の技士や多様な規模の施設、立場の異なる参加者と意見交換することで、多くの学びと刺激を得ることができました。

さらに、AMG臨床工学部から12演題を発表し、学会を通じた交流を深める良い機会となりました。

運営や企画に携わる中で、意見調整の難しさも含め大変貴重な経験となりました。若手からベテランまで多世代が協力することで多角的な視点が生まれ、より魅力的な企画が実現したと感じています。この経験を自身の成長だけでなく、次世代育成にも生かしていきたいと思います。

彩の国東大宮メディカルセンター 中山 有香



## 演題発表一覧(演題名 発表者氏名) 運営スタッフ:三郷中央総合病院 加賀 亘 上尾中央腎クリニック 高橋 千音

### 彩の国東大宮メディカルセンター

それ臨床工学技士にやらせてください！～タスクシフトを"先導"手術機能UPへの挑戦!!～(BPAに選出)	甲斐 颯
当院の新人教育プログラム改訂と結果検証について～新人の立場から～	井戸井 星良
AMG血管造影室ワーキンググループ 血管造影室CEを対象とした参集型研修の実施とその評価	小林 裕也
想定外の手術室における完全停電～CEを中心とした緊急対応～	布留 直美
新人臨床工学技士への新たなローテーション教育の挑戦～視野の広い医療人育成を目指して～	大野 菜

### 上尾中央総合病院

当院における塩素ガス発生対策と今後の課題	黛 泰樹
当科の穿刺業務に関する推移について	坪井 大

### 三郷中央総合病院

下肢抹消血管内治療にてレーザー血流計を使用した2例	塚田 涼太
---------------------------	-------

### 白岡中央総合病院

上尾中央医科グループ臨床工学部広報ワーキンググループ活動報告2025	門井 聡
MACT活動におけるテクニカルアラーム件数の適切な取り扱いを考える	門井 聡
アラームレポートを参照した当院の行うアラーム対応の検討と作成	大塚 怜奈

### 笛吹中央病院

透析災害に対するシミュレーション教育の実践	中野 良城
-----------------------	-------



## 人財開発室

## 2025年度 新人事務職フォローアップ研修会 開催報告



2025年10月、AMG各施設の新人事務職員を対象に「フォローアップ研修会」を大宮ソニックシティで開催しました。本研修会は、入職後の業務を振り返り、現状の課題を整理しながら「やりがい」「働きがい」につなげること、また同期の横のつながりを強め、組織定着を促すことを目的としています。研修会は他己紹介からスタートし、伝え方や相手の理解を意識したコミュニケーションを実施しました。グループワークでは、目標設定や役割分担、協力の大切さを体感し、事前課題の「成功体験の共有」を通して成長への自信を深めました。

研修会に送り出してくださった各病院・施設のみなさま、ご協力ありがとうございました。

全4回、142名の新人事務職員の皆さんが参加しました



10月14日



10月21日



10月24日



10月31日



他己紹介

グループワーク「ペーパー・ブリッジ」



与えられた条件・材料で  
長くて丈夫な橋を作っていきます



強度を計測中...



## 2026年度 ワークアウト(ファシリテーター)研修会 キックオフ 開催報告

## ワークアウトファシリテーター研修会とは？

## ■目的

AMGのワークアウトを推進する人財を  
継続的に育成する

## ■内容

- ①ワークアウトの基本と仕組みを学ぶ
- ②問題解決の手法を身につける

講師の育成は  
「屋根瓦方式」



屋根瓦のように一枚一枚が重なっていくイメージで、先輩が後輩に教え、その後輩がさらに次の後輩に教える—というように、知識やスキルを“重ねて”継承していく方法です。研修会の発足当初は久保田総局長も講師を務めていました

2025年12月15日、AMGワークアウト(ファシリテーター)研修会のキックオフを実施しました。本研修は「AMGのワークアウトを推進する人財を継続的に育成する」ことを目的に、2016年度から開催しています。当日は前任講師と新任講師が集まり、久保田総局長の挨拶、講師紹介、新任講師への委嘱状授与、研修内容の引継ぎを実施しました。今後は新任講師を中心に、前任講師・運営スタッフと共に本番に向けた準備を進めていきます。

2026年度 新任講師のみなさん



千葉愛友会記念病院  
清水主任



横浜あおばの里  
渡邉主任



アルシェクリニック  
中野主任



あげお愛友の里  
平石主任

2026年度AMGワークアウト(ファシリテーター)研修会は6月にオンライン開催予定





# 第66回 全日本病院学会 in 北海道

## 発表報告

2025年10月11日～12日に「第66回全日本病院学会」が開催されました。本学会は「温故知新～その先の、道へ。北海道から新風を～」をテーマに全国の医療関係者が集まりました。

AMGからは、25施設が参加し、102演題の学術発表をいたしました(前回30施設、109題)。

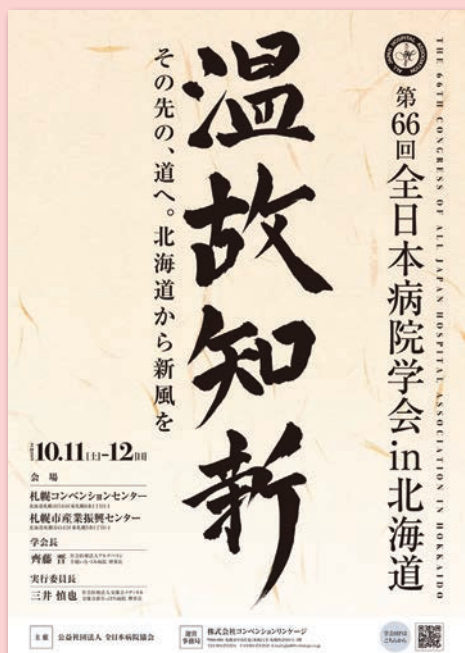
AMGでは、職員のキャリア成長の支援として学会・研究発表や勉強会講師、論文などの執筆活動を推奨しています。

### 久保田総局長よりコメント

AMGグループが学会発表を推奨する目的は、次世代の人材育成を図ることにあります。

年々、主任や一般職クラスのスタッフによる発表が増加しており、これは全体のレベルアップに寄与しています。今後も若手が成長し続ける風土を築いていきたいと考えていますので、ご協力をお願いします。

AMG協議会 久保田 巧



▲会場:札幌コンベンションセンター

今回の  
発表者一覧  
はこちらから



### AMG発表演題の内訳

発表形式	演題数
口演	59
ポスター	43

部門	演題数(題)
診療	1
薬剤	6
看護	18
放射線	22
検査	3

部門	演題数(題)
臨床工学	8
リハビリ	7
栄養	10
事務・SW	27

役職	発表者数
院長	1
課長・科長	7
係長	17
主任	27
一般	49
主事	1

病院・施設	演題数
上尾中央総合病院	7
八潮中央総合病院	2
吉川中央総合病院	6
白岡中央総合病院	4
東川口病院	3
柏厚生総合病院	2
津田沼中央総合病院	14
桜ヶ丘中央病院	3

病院・施設	演題数
浅草病院	2
さがみリハビリテーション病院	2
船橋総合病院	4
彩の国東大宮メディカルセンター	15
千葉愛友会記念病院	6
金沢文庫病院	4
三郷中央総合病院	4
横浜なみきリハビリテーション病院	1

病院・施設	演題数
越谷誠和病院	4
横浜相原病院	3
笛吹中央病院	1
伊奈病院	3
勝田病院	3
横浜鶴見リハビリテーション病院	2
メディカルトピア草加病院	2
埼玉回生病院	2
AMG協議会	3

### 懇親会

2025年10月11日、グランドメルキュール札幌大通公園にて第66回全日本病院学会 in北海道AMG懇親会が開催されました。

最初に中村会長よりご挨拶をいただき、その後、東川口病院 田辺院長の乾杯のご発声にて懇親会が始まりました。

歓談中は円卓を囲みながら大いに盛り上がり、職員同士が交流を深める有意義な時間となりました。閉会は、金沢文庫病院 森山院長からのお言葉をもって無事終了となりました。



### 次回のご案内

#### 「第67回 全日本病院学会」

2026年9月12日～13日に  
埼玉で開催されます

会場:ソニックシティ/  
パレスホテル大宮





## 第66回 全日本病院学会 in 北海道



## 発表者インタビュー

吉川中央総合病院  
主任 中太 聖矢さんポスター発表 「当院におけるリハビリテーション栄養口腔連携体制加算算定による  
リハビリ介入とADLの変化」

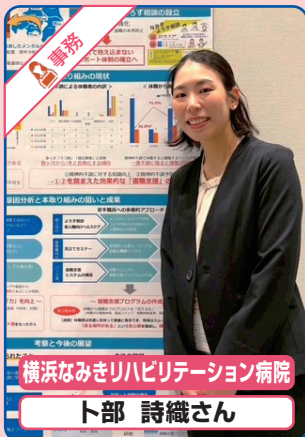
## Q1.発表を終えての感想

初めての学会発表で緊張しましたが、十分な準備期間をいただけたおかげで成功裏に終えることができました。発表後は参加者の皆様から質問や意見をいただき、新たな視点を獲得して勉強になりました。緊張もしましたが、達成感と楽しさのある清々しい経験となり、今後のキャリアに活かしていきたいです。

## Q2.準備段階で苦労した点、良かった点

統計の経験がなかったこともあり、種類の理解や適切な統計の選択に苦労しました。また、扱ったデータ量も膨大であり、データ整理にも多くの時間を割きました。その結果、ささやかながら統計に関する知見を得られたことは収穫でした。

初参加

横浜みなぎリハビリテーション病院  
ト部 詩織さんポスター発表 「精神的不調による離職・休職の予防に向けた  
多層的サポート体制の構築」

## Q1.発表を終えての感想

「無事に終わってよかったー！」この一言に尽きました。協力してくださった皆様のおかげでこの日を迎えられたな、と改めて感謝の気持ちでいっぱいでした。初めての学会発表で会場の雰囲気にもドキドキしていましたが、実際は活気にあふれ、他病院の発表からも多くを学びました。自身の発表も含め、とても良い経験となり、総務課職員として成長できたと感じています。

## Q2.準備段階で苦労した点、良かった点

ポスター制作は初めてで、見やすく分かりやすい構成を考えるのがとても難しかったです。話したいことが多く、内容を7分に簡潔にまとめるのにも苦労しましたが、何度かプレ発表会を行い、アドバイスをもらえたことで緊張も和らぎました。事務長・総務課・経理課みんなの協力なしには完成させることは出来ませんでした。

初参加

埼玉回生病院  
飯盛 茜さんポスター発表 「食形態の調整と嗜好の配慮によって中心静脈栄養から  
完全経口摂取が可能となり重度低栄養から改善した一例」

## Q1.発表を終えての感想

初めての学会発表で不安は多くありましたが、多くの方に支えられて無事に終わることができました。発表を通じて研究を客観的に見直す機会となり、温かいご意見や質問から今後の課題や方向性も明確になりました。準備は大変でしたが、それ以上に大きな学びと達成感を得られ、今後の研究活動の励みになりました。

## Q2.準備段階で苦労した点、良かった点

発表準備では、限られた時間内で伝えたい内容を整理することに苦労しました。特にスライド構成では、専門的な情報をわかりやすく表現する工夫が必要でした。一方で、資料作成を通じて自分の研究を客観的に見直すことができ、理解が深まりました。リハーサルを重ねたことで自信を持って本番に臨むことができました。

初参加

彩の国東大宮メディカルセンター  
高橋 琴音さん (写真右)

## 口演発表 「残薬調整の疑義照会簡素化が院外処方 に及ぼす影響」

## Q1.発表を終えての感想

大きな学会での発表は初めてだったので緊張するかと思いましたが、事前に何度も上司に添削していただいたり、アドバイスをもらっていたので、あまり緊張はせず自信を持って自然体で発表することができました。終わってみると楽しかった！と思うことができ、初めての経験に自信ができました。

## Q2.準備段階で苦労した点、良かった点

ポスター発表は一度したことがあるのですが、ポスター発表と口演発表ではスライドの情報量や文字数・レイアウトが異なってくるのでどのように作成したら聴いている人に分かりやすく伝えることができるのか悩みました。スライドの視覚効果や発表時の声のトーンにも気を付けることで、分かりやすい発表になるように工夫しました。

2回目



特定非営利活動法人 日本医師事務作業補助者協会 第14回 全国学術集会が行われました！

人財開発室

2025年10月19日(日)に特定非営利活動法人 日本医師事務作業補助者協会  
第14回 全国学術集会が高知県にある【高知市文化プラザかるぽーと】にて行われました。  
今回AMGからは6演題の発表がありました！

～当日のプログラム～

- 学術集会長講演「地域医療の変化に向き合う臨床支援士 ～未来への一步をと共に～」
- 教育講演「医師の働き方改革の更なる推進および医師事務作業補助者に期待される役割等について」
- 医学講演「人生100年時代を迎えて ～認知症診療におけるパラダイムシフト～」
- シンポジウム「変わりゆく地域医療と臨床支援士の役割～未来への挑戦～」

今回、学術集会のおもてなし企画として「よさこい鳴子踊り」の披露がありました！  
「よさこい」とは、土佐弁で「来てください、今晚おいでなさい」という言葉からとった  
もので、不況を吹き飛ばし地域を元気づける目的で開催された「高知よさこい祭り」が  
起源となり全国に広まったそうです。



清水上席室長より

今年も学術集会にエントリーしていただき、ありがとうございました。  
開催地が高知と遠方でしたが、現地での発表、大変おつかれさまでした。  
さて、来年度は診療報酬改定の年となります。なかでも医師事務作業補助者体制加算は、日々の業務の内容  
が評価され、点数の引き上げが見込まれています。  
今後は、生成AIなどの新しい技術を活用し業務の効率を図ることで、医師事務作業補助者の活躍の場は、さ  
らに広がっていくと考えられます。こうした日々の取り組みや工夫を積み重ね、ぜひ来年度の学術集会での発  
表に繋げて欲しいと思います。  
今後とも、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

久保田総局長より

今回で、14回目となる学術集会が開催されました。  
今年度は、AMG運動会と同日となりましたが、その中でも6施設より発表がありました。  
医師の働き方改革、医療DXの推進など、ますます変わりゆく環境の中で、医師事務作業補助者の役割もこれまで以上に重要性が高まっています。  
今回の学術集会で、全国の医療機関等の取り組みから学び、各施設での課題解決と効率化、さらに医療の質の向上につながる機会となったのであれば幸いです。  
引き続き、ご支援の程よろしくお願いいたします。



発表演題一覧

施設名	演題名	筆頭演者
上尾中央総合病院	診療科を越えた診療支援業務体制の構築	藤倉 恵実
越谷誠和病院	主治医意見書～スムーズな作成業務を目指して～	橋本 百華
千葉愛友会記念病院	整形外科退院サマリ作成支援の取り組みとその効果について	大内 恵理
白岡中央総合病院	労働力不足の解消に向けて導入した生成AIの活用と今後の可能性	上野 圭汰
メディカルトピア草加病院	ポジティブインシデントの視点によるヒューマンエラー可視化の試み～現場対応にみた医療安全の可能性～	※竹内 奈央
吉川中央総合病院	地域医療課題の解決の鍵はわたしたち！～糖尿病専門外来から見たチーム医療の力～	中村 萌菜

※現、越谷誠和病院

上尾中央総合病院  
外来看護科  
藤倉 恵実

診療科を越えた診療  
支援業務体制の構築

ラダーに基づき配属科の外来診療支援と書類代行作成の教育を行っているが、属人化しやすく他診療科への異動が困難な状況でありこの体制を見直すことで業務の改善を図った。1人配置診療科のDAが退職することになり、異動ではなくDA全体でのヘルプ体制が導入できると考え取り組んだ。主任が対象診療科の業務内容を把握し、既存のマニュアルを更に具現化した手順書を作成。対象者は多職種連携の重要性を理解し、一定のlevel(ラダーlevel3取得・3年目以上・新人教育を行っていない)を条件とした。これらの取り組みを行ったことで業務が平準化され、当番制での「診療科を越えた診療支援業務体制」を構築できたと考える。



吉川中央総合病院  
メディカルクラーク課  
中村 萌菜  
齊藤 友香 徳井 一恵

地域医療課題の解決の鍵はわたしたち！  
～糖尿病専門外来から見た  
チーム医療の力～

2024年度から糖尿病専門医を常勤に迎え、専門外来を開始。専任MCを配置し外来診療支援体制を構築。医師の勉強会へ継続的に参加し、業務と治療の関係を把握。カルテ予習復習・患者情報要約し多職種と情報共有。一貫した診療サポート体制を確立し、患者が苦手な自己注射や栄養指導への不安を軽減。在宅自己注射指導管理件数は約8倍、栄養指導件数は約14倍と大幅に増加。外来患者数の獲得にもつながり、全科の外来受診患者数がコロナ禍前の水準を上回っただけでなく、健診二次検査受診率も前年度比13.8%増加し、地域医療課題の改善に役立てた。MCがチーム医療の中心となり、医療の質向上に加え、集患、収益増に大きく貢献できた。





## 人財開発室

白岡中央総合病院  
メディカルクラーク課  
上野 圭汰

労働力不足の解消に向けて導入した  
生成AIの活用と今後の可能性



当課は産休・育休の取得や退職者が出たことに加え、2人主治医制(地域のかかりつけ医と病院の医師)の開始により業務過多になっていた。限られた人数で業務の効率化を図るため、金銭面・セキュリティ面・精度の高さなどの条件をもとに生成AI(文字起こし、文章作成・要約アプリ)を導入した。議事録、カンファレンス記録、診療情報提供書の作成時間を短縮し、各種文書作成の負担軽減により、労働力不足の解消に繋がった。2人主治医制への業務拡大も可能になり、医師の負担軽減及び地域医療連携の推進に貢献した。MCのITリテラシー不足や院内整備などの課題はあるものの、生成AIの積極的な活用が新たな時代への第一歩になると考える。

千葉愛友会記念病院  
メディカルサポート課  
大内 恵理

整形外科退院サマリ作成支援の  
取り組みとその効果について



整形外科退院サマリ作成支援の取り組みとその効果について

当院へ2024年4月に常勤整形外科医師が入职し患者数増加に伴い繁忙状態が慢性化していた。タスクシフトの一環で医師事務による退院サマリ作成支援を2025年3月より開始した。開始するにあたり医師と記載についてのルール設定を行い、部署内でマニュアルを作成し誰が作成しても見やすく統一された内容のサマリを目指した。介入した件数は常に1カ月40件以上あり、医師は約200分～290分の時間を別の業務に使うことができたことと示唆された。医師からは診察に時間が使えるようになった、残業時間が減ったなどの返答をいただき、医師の業務負担軽減と働き方改革へ貢献できた。

大会長の藤井様とパシャリ 📷

(独立行政法人労働者健康安全機構 労災病院支援準備課 第一課長)



白岡中央総合病院が優秀演題賞  
を受賞しました！

## 優秀演題賞受賞コメント

この度、学会にて発表の機会をいただき、課内の手厚いサポートのおかげで6年連続優秀賞という快挙を達成することができました。極度のプレッシャーの中での発表でしたが、この経験は私にとってかけがえのない財産となりました。また、会場では生成AIやICT活用への関心の高さを肌で感じたため、この分野で先駆的なスタートを切れたことは、大きな自信に繋がりました。

生成AIは利便性が高い反面、誤情報及び情報漏洩リスクが高いため、慎重に扱う必要があることを改めて実感しました。課内での生成AIの適切な活用に向けて、引き続き使用環境を整備していきたいと思っています。

男性の医師事務作業補助者の採用を強化している昨今、今回の受賞で男性が活躍できる場を示せたことは、一つの希望になると確信しています。今後も男性採用の活性化、ひいてはグループ全体の発展に貢献できるよう精進してまいります。

越谷誠和病院  
メディカルクラーク課  
橋本 百華

主治医意見書  
～スムーズな作成業務を目指して～



当院は診療科すべての主治医意見書をMC課が作成している。数年前より問診票を作成し、活用してきた。越谷市は郵送で届くため、入院患者以外の問診は電話や外来受診時に行っていた。患者のコメント欄に問診記載依頼を残し、外来担当者が確認、患者さんへ問診票を渡し、記入をお願いしていた。しかし、コメント欄の見落としや患者さんの記入漏れが多かった。よって外来担当者への案内ファイルと3枚つづりである注意書きを作成し、運用を始めた。従来はカルテを開かないとコメントに気づけなかったが、来院予定患者の把握が容易になり、案内用紙を添付することで患者さんの記入漏れが減少した。結果として書類作成期間の短縮に繋がった。

メディカルピア草加病院  
診療補助課  
竹内 奈央

ポジティブインシデントの視点による  
ヒューマンエラー可視化の試み  
～現場対応にみた医療安全の可能性～

日常業務には多くの潜在的・ポジティブインシデントが存在するが、提出される「安全管理報告書」は月3件程度であった。そこで報告に至らないポジティブインシデントを集計したところ、月約70件確認された。可視化により、臨床支援士が医師の診療を支え、医療安全に寄与していることを再確認できた。「問題を報告する」から「良い対応を共有する」へと意識が変化し、感謝や信頼が可視化されたことで、職種を超えた協働が促進された。さらに、前向きな報告が増えることで職員のモチベーションも高まり、組織としての安全意識の底上げにもつながっている。今後も日々の気づきを組織全体で共有し、安全文化の一層の向上を目指していく。



次回は2026年秋 東京にて開催予定です！





## 令和7年度 川口市功労表彰「優良特定給食施設」

このたび、令和7年度川口市功労表彰の「優良特定給食施設」として、東川口病院が表彰を受けました。日頃よりご支援いただいている皆様にご心より感謝申し上げます。

当院では、長年にわたり厨房業務を日清医療食品株式会社に委託し、委託業者と緊密に連携しながら、HACCPに基づく衛生管理の徹底に取り組んでいます。その結果、衛生的で安全な給食環境の維持に加え、食事満足度調査の結果を反映した献立づくりや、行事食・デザートの日の実施など、患者さんに喜ばれる食事提供ができていた点を評価いただきました。また、当院では早期からリハビリテーション・栄養・口腔の多職種連携体制を整え、入院時の評価やミールラウンド、カンファレンスを通して、適切な食形態や栄養管理を多職種で検討し、低栄養への迅速な対応に努めています。さらに、骨粗鬆症リエゾンサービスチームとして予防的な栄養指導や公開講座での啓発活動にも取り組んでおり、これらの栄養改善・健康普及活動も高く評価されました。

今回の受賞を励みに、今後も患者さんの健康回復に寄与できる質の高い食事提供と地域への貢献を目指して、より一層尽力してまいります。

東川口病院 栄養科 中山 美千代



## 栄養部「臨床栄養管理研修の開催」

栄養部では、実践的知識の習得と最新のトピックスの理解を目的に「臨床栄養管理研修」を毎年開催しています。2024年の診療報酬改定ではリハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算が新設され、リハと栄養さらに「口腔」が連携することの重要性が示されました。そこで、2025年度は口腔ケアをテーマとし、講師には口腔ケアの分野で大変ご活躍されているTMGあさか医療センター歯科口腔外科部長 島崎士先生を招聘し、「栄養のための口腔管理」というテーマでご講演いただきました。

ご講演では口腔疾患や嚥下スクリーニング、口腔アセスメント方法など多岐にわたる内容を

多くの写真や動画とともにご紹介いただき、大変勉強になりました。研修の有効率も91%と高い結果となりました。

10月現在で（リハ栄養口腔加算）⇒リハビリテーション栄養口腔連携体制加算算定病院は上尾、吉川、白岡、東川口、桜ヶ丘、千葉愛友、伊奈、勝田の8病院となっています。各病院多職種と連携して取り組んでいます。さらに、入院時から口腔環境を確認し、適正な食形態で食事提供をするためにも今回の研修は大変有意義でした。

栄養部 教育チーム

## リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算

### 急性期におけるリハビリテーション、栄養管理及び口腔管理の取組の推進

#### 急性期におけるリハビリテーション、栄養管理及び口腔管理の取組の推進①

急性期医療におけるADLが低下しないための取組を推進するとともに、リハビリテーション、栄養管理及び口腔管理の連携・推進を図る観点から、土曜日、日曜日及び祝日に行うリハビリテーションを含むリハビリテーション、栄養管理及び口腔管理について、新たな評価を行う。

（新） リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算（1日につき）

120点



#### より早期からの切れ目のないリハ（離床）・栄養・口腔の取組

- ・疾患別リハビリテーション等の提供によるADL等の改善
- ・土曜日、日曜日及び祝日に行うリハビリテーションの提供
- ・入棟後早期のリハビリテーションの実施
- ・病棟専任の管理栄養士による早期評価と介入



#### 多職種による評価と計画

- ・原則48時間以内の評価と計画作成
- ・口腔状態の評価と歯科医師等の連携
- ・定期的カンファレンスによる情報連携



## 「ソーシャルワーカーの基本姿勢」開催報告

9月26日、新人シリーズ研修②「SWの基本姿勢～私の価値観と専門職の価値・倫理～」を開催。萩原係長(さがみりハ)が講師となり、「AIでソーシャルワークは可能か?」という問いから、命・家族・友情・お金等の個人の価値観に順位付け、グループワークを通して、SWの専門性や基盤について楽しく学びました。開催後、参加者より「定型的な支援であればAIでも可能であるが、人と環境、そしてその相互作用に柔軟に働きかけることができるのは、人間のソーシャルワーカーだからこそできること」との感想もいただきました。多種多様な価値観を自覚する充実した研修となりました。



▲講義の様子



▲価値観のグループワーク

## 「中堅からのストレスコーピング」開催報告

10月30日、サポートシリーズ②「中堅からのストレスコーピング～ソーシャルワーク実践を高める心の整え方～」を開催しました。株式会社ヒューマン・タッチの古屋いずみ先生を講師にお迎えし、中堅以上が身につけておきたいストレスマネジメントの理論についてお話いただきました。中堅ならではの悩みやストレスを抱える中で、セルフチェックを通じて自分の「価値」や「強み」を再発見することができ、また、ストレスを適切にコントロールすることで心身が整い、安定した相談支援や後輩指導に繋げられる気づきも得る事ができました。



▲講義の様子



▲講師とともに個人ワークの共有



▲古屋先生を囲んで集合写真

## 病院管理職会議 開催報告

2025年9月30日、SW部病院運営部門主催にて、今年度1回目の病院管理職会議を行いました。今回もZoom開催とし多くの病院にご参加いただきました。

今回はACPについて各病院の取り組みを共有、またグループワークを通して虐待や身寄りのない患者対応など日々の業務の悩みについて意見交換しました。

事後アンケートにて次回話したい内容についてもご意見をいただきました。

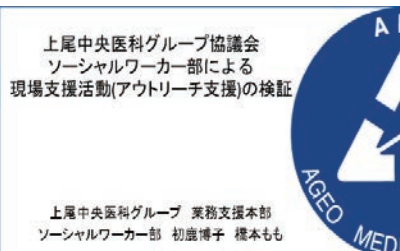
病院運営部門では、管理職会議の他にサロンの開催やニュースレターの発行についても取り組んでおります。これらの活動が、日々の業務の何かヒントになれば幸いです。引き続きご協力よろしくお願いいたします。



## 学会発表活動報告 ～ 第66回全日本病院学会 in 北海道 ～

学会テーマは温故知新 ～その先の、道へ。北海道から新風を～

SW部 初鹿副室長が、SW部による現場支援活動(アウトリーチ支援)の検証について発表。全国のSWや多職種との意見交換、900超の演題から学ぶなど研鑽を深める貴重な機会となりました。



2025年10月11(土)・12日(日)北海道札幌市で開催された第66回全日本病院学会に参加いたしました。津田沼中央総合病院・医療福祉総合相談室から内田千恵・滝沢朋苗・鱈居千尋の3名・各自3演題を研究発表しました。

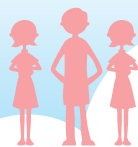
多忙な業務の中、自身の大切にしていることや日々取り組んできたことを振り返りながら調査・研究し、言語化することでより自身の中に落としこむことができました。また、全国の他病院の取り組みや講演などから新たな発見や学びもあり、充実した2日間を過ごすことができました。

今後も自身を磨きながら、次の研究発表にトライできればと思います。



上尾中央医科グループ

医療の質向上委員会

AMQI  
The AMG Committee of  
Medical Quality Improvement

お問い合わせ先 | AMQI事務局 (上尾中央総合病院 組織管理課) e-mail ▶▶▶ omr@ach.or.jp

## 連載 第66回 「医療の質向上と病院経営を両立するための購買管理について」

医療を取り巻く環境は急速に変化しており、安全で効率的な医療提供体制を整えることがこれまで以上に求められています。医療の質を高めるためには、継続的に安定した経営基盤が不可欠であり、中でも医療材料・物品・医薬品などの経費は、人件費に続いて病院経営に大きな影響を与える重要な課題です。そのため、評価項目4.5.2購買管理を適切に行っている、にもあるように大事な要素となります。

購買管理は特定の部署だけで完結するものではなく、病院全体で協働して取り組むべき業務活動です。明確な基準と透明性のある仕組みを整え、委員会や会議体で継続的に検討できる体制を構築することが、組織としての購買管理の進展につながります。こうした体制を支える手段の一つとして、物品管理の外部委託であるSPD(Supply Processing and Distribution)の活用が挙げられます。

SPDは発注から現場への供給までを一部あるいは全部委託し、効率的に管理する仕組みとして大病院や急性期病院などで導入されていますが、近年ではその役割が多様化しています。棚卸資産の適正化、使用

期限の一元管理、誤使用や保険請求漏れの防止、医療材料の標準化、データ活用による経営予測など、経費の適正化は勿論のこと安全や質の向上にも寄与することが期待されています。また院内には薬剤や検体を自動搬送するロボットの登場など、IT化による利便性の向上や現場負担の軽減などへも進展しています。

地域連携としての取り組みでは、地域医療連携推進法人がSPDを活用して共同購入を行い、診療材料を標準化する取り組みも見られています。

ただし、SPDを導入するだけで購買管理が改善されるというわけではありません。SPDが十分に機能するためには、病院の多職種が協働して取り組む文化が根づいていることが前提となります。患者ケアが多職種の協働によってなされるように、購買管理もまた、部署や職種の垣根を越えて情報を共有し、一丸となって取り組むことで持続可能な経営と安全で質の高い医療の実現に寄与する業務改善活動となります。ぜひ院内の購買管理の流れについて興味を持っていただけると幸いです。



**令和7年度 千葉県老人保健施設大会 最優秀賞受賞****看護本部**

～ ハートケア流山 ～

**最優秀賞****演題名** 地域との繋がりで人財育成・高校生から福祉のPROへ**発表者** 介護看護部 介護福祉士 山崎 彩華**演題名** 老健施設に歯科衛生士が初入職する**発表者** 介護看護部 歯科衛生士 藤井 ユキ

千葉県老人保健施設大会において2題を発表し、うち【地域との繋がりで人財育成・高校生から福祉のPROへ】が最優秀賞を受賞しました。2017年度から高校授業を継続し、無資格から介護福祉士取得までの一貫した育成体制や高い定着率が評価され、「満場一致」との講評をいただきました。

また【老健施設に歯科衛生士が初入職する】では、口腔ケア技術の向上、加算取得、ミールラウンドの充実など、老健における歯科衛生士の重要性を報告しました。

今回の成果は、日々のケアに尽力する職員、そしてご利用者・ご家族のご理解の賜物です。

今後も質の高いケアと信頼される施設づくりに努めてまいります。

**第20回 横浜市介護老人保健施設研究大会 優秀賞受賞 ～ 横浜あおばの里 ～****演題名** ケアのPDCAサイクルの円滑な実行 ～ケア内容の可視化～**発表者** 介護看護部 介護福祉士 主任 北野 枝里香

今回、横浜市介護老人保健施設研究大会にて優秀賞を頂く事ができ大変光栄に思います。

この研究を行なうきっかけは、多様化している業務の中で、統一したケアが行えておらず、せっかく立てた介護計画の実施と評価が出来ていないなどの課題があり、取り組みを行ないました。取り組んでいく中で、一人ひとりのスタッフが改めて個々の利用者様の課題を理解しケアに携わる、担当ではない利用者様のケアについても知り、統一した関りが持てるようになりました。引き続き、より良いケアが提供できるように取り組んでいければと思います。

**第36回 全国老人保健施設大会in山口 参加報告**

11月27日・28日に開催された全老健大会では、AMGから16演題の発表と41名の参加があり、会場は大いに盛況となりました。看護本部からは、グループ23施設で導入している「介護施設版・医療安全連携シート」と相互評価システムの効果について研究成果を報告しました。本研究では、自己点検表の前後比較とインシデント・アクシデント報告件数を指標とし、導入前後の変化を効果量(Hedges' g)を用いて分析しました。その結果、自己点検表の平均点が上昇し、標準偏差が縮小したことで、施設間のバラつきが減少し、安全管理体制の均質化が進んでいることが示されました。また、報告件数の推移からは、分析体制の整備や情報共有の促進が進んだことも確認されました。質疑応答もスムーズに行われ、AMGの取り組みは他法人からも高い関心が寄せられました。なお、来年の開催地は宇都宮です。より多くのAMGの仲間とともに参加し、学びと交流を深めていきたいと考えています。

看護本部 介護科長 岩崎 太郎







## 2026年度 キャリアサポートセンター 研修一覧

Online  
オンライン  
研修

## 日本看護協会認定

研 修 名	日程および期間	定員	受講料(税込)	申 込 期 間	選考通知
認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	4月10日(金)～7月4日(土) 原則 週2日/金・土曜	100名	150,000円	1月6日(火)～1月30日(金)	3月中旬
認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	7月17日(金)～11月14日(土) 原則 週2日/金・土曜	50名	210,000円	4月1日(水)～4月30日(木)	5月下旬
認定看護管理者教育課程 サードレベル※1	(2027年) 7月8日(水)～2月20日(土) 原則 週2日程度(10～12月は自己学習期間)	30名	300,000円	4月1日(水)～4月30日(木)	5月下旬

※1 一部対面研修

## 厚生労働省認可

看護学生実習指導者講習会	7月7日(火)～11月24日(火) eラーニングを含む	100名	50,000円	4月1日(水)～4月30日(木)	5月中旬
特定分野における 看護学生実習指導者講習会	10月1日(木)～12月22日(火) eラーニングを含む	30名	25,000円	7月1日(水)～7月31日(金)	8月下旬
介護福祉士実習指導者講習会	(2027年) 2月3日(水)～3月3日(水) 原則 週1日 5日程度	40名	27,000円	11月2日(月)～11月30日(月)	12月中旬

## 日本介護福祉士会申請済

介護福祉士 ファーストステップ研修	(2027年) 5月7日(木)～1月26日(火) 原則 週1～2日 14日程度	合計 30名	75,000円	2月2日(月)～2月27日(金)	3月下旬
認知症介護実践リーダー研修 (介護福祉士ファーストステップ研修含む)※2	(2027年) 5月7日(木)～1月26日(火) 原則 週1～2日 15日程度		85,000円	2月2日(月)～2月27日(金)	3月下旬

※2 対象者：介護福祉士の資格を有し、実務経験が通算5年以上ある者。あわせて、認知症介護実践者研修を修了している者（修了証の写しを提出すること）。自治体との協議により、上記1科目を追加履修で「認知症介護実践リーダー研修」として認定。修了証交付。

## 診療報酬加算対象

厚生労働省「医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針」 医療安全管理者養成研修	未定			詳細はホームページをご確認ください。
--	----	--	--	--------------------

## その他

診療報酬改定セミナー	3月31日(火) 13:30～16:30 半日	500名	5,000円	詳細はホームページをご確認ください。
看護管理者のための研修	5月16日(土) 13:00～16:00 半日	100名	3,000円	詳細はホームページをご確認ください。
トピックス研修	未定 半日			詳細はホームページをご確認ください。

研修日程は変更する場合がありますので、必ずホームページをご確認ください。



一般社団法人 上尾中央医科グループ協議会  
キャリアサポートセンター

【所在地】〒362-0036  
埼玉県上尾市宮本町10-29  
AMG 学習館3階

【お問い合わせ】上尾中央医科グループ協議会 看護本部  
(平日) 8:30～17:30 (土曜) 9:00～12:00

TEL 048-771-7765 Mail [csc@amg.or.jp](mailto:csc@amg.or.jp)  
URL [https://amg.or.jp/career\\_support/](https://amg.or.jp/career_support/)





# 2025-26 大同生命SV.LEAGUE WOMEN

埼玉上尾メディックス

2025年10月に開幕した2025-26 大同生命SV.LEAGUEも中盤。  
埼玉上尾メディックスは現在8勝8敗で第10位につけています。  
前半戦は特に厳しい戦いが続きましたが、ここからがメディックスの見せ場です!!  
優勝目指して駆け抜けよう!!



## GAME RESULT

試合結果

### 第1節 vs PFUブルーキャッツ石川かほく HOME

[GAME 1] 10/11(土) ○ 3-2  
[GAME 2] 10/12(日) ○ 3-1

### 第7節 vs 大阪マーヴェラス HOME

[GAME 1] 11/22(土) ● 0-3  
[GAME 2] 11/23(日) ● 0-3

### 第2節 vs KUROBEアクアフェアリーズ HOME

[GAME 1] 10/18(土) ● 2-3  
[GAME 2] 10/19(日) ● 2-3

### 第8節 vs NECレッドロケッツ川崎 AWAY

[GAME 1] 11/29(土) ● 2-3  
[GAME 2] 11/30(日) ○ 3-2

### 第4節 vs 東レアローズ滋賀 AWAY

[GAME 1] 11/1(土) ○ 3-1  
[GAME 2] 11/2(日) ○ 3-0

### 第9節 vs 岡山シーガルズ AWAY

[GAME 1] 12/6(土) ● 1-3  
[GAME 2] 12/7(日) ○ 3-1

### 第5節 vs ヴィクトリーナ姫路 HOME

[GAME 1] 11/8(土) ○ 3-2  
[GAME 2] 11/9(日) ● 1-3

### 第6節 vs デンソーエアリービーズ AWAY

[GAME 1] 11/15(土) ○ 3-2  
[GAME 2] 11/16(日) ● 0-3



## 皇后杯 JVA全日本選手権大会ファイナルラウンド ベスト4

令和7年度天皇杯・皇后杯 JVA全日本バレーボール選手権大会ファイナルラウンドが東京都で開催されました。

埼玉上尾メディックスは、黒後愛の攻守にわたる活躍や二枚替えで途中出場した新人の井城青空の得点力が光り、チーム一丸となって3回戦と準々決勝戦を突破し2018年以来となる準決勝に進出。準決勝戦は、SV.LEAGUEで現在4位の大阪マーヴェラスと対戦。スタートから勢いよく得点をとり食らいつくと、相手のディフェンス力に苦しめられました。その中で、監督・大久保茂和もメンバーチェンジを積極的に行い総力戦で戦うもストレートで敗れ、大会ベスト4という結果で皇后杯は幕を閉じました。

## GAME RESULT

試合結果

### 3回戦 vs KUROBEアクアフェアリーズ富山

○ 3-1 22-25 25-23 25-22 25-17

### 準々決勝戦 vs デンソーエアリービーズ

○ 3-0 25-17 25-20 25-18

### 準決勝戦 vs 大阪マーヴェラス

● 0-3 23-25 16-25 18-25





## 埼玉上尾メディックス



# あなたも会場で「一丸」となりましょう!!

AMGグループでは、職員や職員家族・友人と一緒に  
試合観戦ができるチケット優待あり!

※ホームゲームチケットについては、[medics.ticket@amg.or.jp](mailto:medics.ticket@amg.or.jp)までお問い合わせください。



## HOME GAME SCHEDULE 2026

2月21日(土)、22日(日) 13:05試合開始

vs Astemoリヴァーレ茨城

@大田区総合体育館(東京都大田区)

3月14日(土)、15日(日) 13:05試合開始

vs 東レアローズ滋賀

@リプロ武道館(埼玉県上尾市)

3月28日(土)、29日(日) 13:05試合開始

vs デンソーエアリービーズ

@蓮田市総合市民体育館パルシー(埼玉県蓮田市)

4月4日(土)、5日(日) 13:05試合開始

vs 岡山シーガルズ

@所沢市民体育館(埼玉県所沢市)

## MEDICS Information

埼玉上尾メディックスの試合情報や、選手の日常など日々発信中です!  
ぜひチェックしてくださいね★

■公式ホームページ



■公式X



■公式Instagram



■公式TikTok



■公式YouTube



■公式オンラインストア



## 11月8日、9日@サイデン化学アリーナさいたま 春の高校バレー埼玉県代表決定戦との共同開催!!

春の高校バレー2026全国大会への出場権をかけた、武蔵コーポレーション杯 令和7年度 第78回 全日本バレーボール高等学校選手権大会埼玉県予選の男女決勝戦と共同開催でホームゲームを行いました! SVリーグ女子では初の試みとなり、ゲストにはバレーボール芸人・さとゆりさんもお呼びし、会場も大盛り上がり! 春日部共栄高校出身の入澤まい選手も「共同開催をすることができてとてもうれしい」と喜んでいました!



## 山岸あかねアンバサダーが 「上尾シティハーフマラソン」に参加しました!

『第38回2025上尾シティハーフマラソン』(11月16日開催)に埼玉上尾メディックスから山岸あかねアンバサダーが出場しました。今回の上尾シティハーフマラソンでは、6,655名のランナーが参加し、山岸さんは沿道の応援に手を振りながら、終始笑顔で走る姿を見せ、参加者や観客に元気を届けました。





## ベトナムの医療大学とインターンシップ事業を締結 2025年12月9日

総務部

現在、上尾中央医科グループ内には、220名以上の技能実習生・特定技能生・介護福祉士が就労しております。新たな取り組みとして、2027年度からベトナムインターンシップ制度の導入を進めています。インターンシップ制度とは、学生が自らの専攻分野や将来のキャリアに関連した実習・研修的な就業体験を行い、大学の講義だけでは習得が難しい実務的なスキルや職業理解を深めることを目的とした教育プログラムです。学生は卒業のために一度帰国しますが、2年目には特定技能生に移行して戻ってくることが出来ます。10月にはハノイ医療短期大学と、12月にはダナンのドンア大学とMOU(基本合意書)を締結しました。



日本では、75歳以上人口が2044年にピークを迎えると予測される一方で、介護福祉養成校への入学者数や介護職員としての就業希望者は年々減少しており、医療・介護分野における人材不足は深刻さを増しています。こうした状況の中、大阪の社会医療法人愛仁会では、先進的にインターンシップ制度を導入し、HRM(人的資源管理)の観点から学生の実践的能力の育成と将来の医療人材の確保に向けた取り組みを積極的に推進しています。

このたび当グループは、社会医療法人愛仁会とパートナーシップを締結し、共同で価値創出に取り組んでまいります。医療・介護分野が直面する人材不足という、社会課題の解決に寄与するとともに、将来にわたり質の高い医療サービスを提供できる体制の構築を目指してまいります。

看護本部 看護業務部 外国人支援室 佐藤真紀

